



美術館だより

TEL (63) 7788

こども画廊「湯河原の春の絵巻」

谷内六郎展

4月3日(月)まで開催中



「うまくとれるかな」

谷内六郎画伯の絵は、なぜ見る人に郷愁を感じさせるのでしょうか。描かれた景色は昭和の初めころの田園風景。登場する少年や少女は作者であり読者でもあります。画伯の作品は、子供のころに見たり感じたりした印象をもとに創作されています。誰もが持っている幼少時の記憶その原風景を絵という形で表したのです。でもその世界はただ懐かしいだけのものではないようです。子供のころから青年期まで喘息の発作に悩まされていた画伯は、病床での不安や恐れを、絵を描くことでまぎらわしていました。夢とも現実ともわからない生と死の境界での体験が谷内画伯の作品の原点となっているのです。



「柿ののれん」

また、自称「マンガ家」であった画伯の作品には、ユーモアやウィットといったアイデアが随所に生かされています。これも見どころの一つといえるでしょう。

～美術の話を聞きに来ませんか～ ギャラリートーク

【日 時】3月14日(火)14:00
3月19日(日)10:00

【場 所】湯河原ゆかりの美術館 展示室

【テーマ】「谷内六郎展」作品解説

【講 師】当館学芸員

【参加料】入館料のみ

こどもギャラリー

小・中学生の皆さんが、学校活動の中で描いた作品の中の100点を美術館内に展示いたします。
日程 2/24～3/9 湯河原中学校 (小学校の展示は2月23日で終了しました。)
*詳細は美術館へお問い合わせください。

入館料 円

| 小中学生 | 大人 | 一般 |
|------|-----|-----|
| 300 | 600 | |
| 200 | 500 | 割引券 |
| 200 | 400 | 町民 |

休館日 毎週水曜日
開館時間 9時～16時30分 入館は16時まで
町民の方は受付で町民証の提示をお願いします。
毎月第3日曜日の家庭の日は、町民の方は入館無料です。

一喜一憂

例年より半月以上遅れて、ようやく梅が咲き始めました。

卒業式のシーズンです。

「仰げば尊しわが師の恩」。今では、なつメロのようになってしまう卒業式の歌。恩に値しない教師が、聞くに忍びないことが原因なのでしょう。メロデーとともに歌われた詩の数々が、どれ程子どもたちの心の支えとなり、文化の根を形づくってきたか。

日本の文化は、伝統も、情緒も、すべて言葉の中にあります。小中学校での国語ととりわけ自分の考えを文章で書き表す記述力の低下が進むと言われる中、こんな詩に出会いました。

こらえてやい、せんせい
なしておこるんね
おこなさんな

あのがあんまりおしゃべりするけよね
ねせんせいおしゃべりしたらいけんねえ
おこられてなくくらいなら おしゃべりせんがいいね

ね、せんせい、こらえてやい
友だちへの思いやりにあふれた小学二年生の詩です。

この詩をつくった子どもは、「こらえてやつて」と先生に呼びかけています。

叱られるのは仕方ないと、友だちを批判しかけています。自分が悪いと反省し、先生に謝りたいけど、それができずに泣いている友だち。自分も同じ経験があるから、友だちの心がよくわかる。しっかりと自分の考えをまとめて書いた詩だと思います。

人間としての感情の欠落は、子どもの世界にまで及び、「友だちは、みな競争相手」と、成績だけを重視する勝ち組、負け組の二極化が進んでいます。それに歯止めをかけようと、教育課程の基準を学力重視から

ゆとり重視へ転換し、「自ら考える力を養つ」総合学習が導入されました。が、授業時間や教科内容を減らしたことが、学力低下の犯人と、親や教師、経済界からも指摘され、わずか三年で抜本改正。すべての教科の基本となる国語力の育成に力を注ぐことに異論はありませんが、授業時間を減らしたことが学力低下の原因なのか。時間を増やしても学力の向上は保証されないばかりか、子どもの自主性を重んじる教育から、再び詰め込み型教育に戻る心配もあります。

教科書の内容や指導方法によって、楽しみながら授業が受けられ、すべての子どもが、それぞれ持っている個性や感性や能力を伸ばし、学習に興味を持たせる熱血教師の育成によって、ゆとり教育と同時に、学力を向上させることは可能だと思います。

新しい指導要領は、義務教育の最低ラインを定めたものであり、不足する教育内容は、地方で補うとされています。

地方独自の創意工夫で、教職員給与の総額裁量制を運用し、能力の低い教師の給与を減らし、指導力に欠ける教師には「退場」願う。浮いた人件費で教師を増やし、少人数学級や小学校に英語科を設け、全学年に英会話の授業を行うことや、学力より情操教育を重視し、自然環境とのふれあい授業や、人と人との絆を育てる「人間生き方科」を創設することも可能だと思います。

どんなに文明が進み、勉強方法が変わっても、ひらめきやセンスは、パソコンで学ぶことはできません。

学校教育の成否は、子どもとしかに接する教師の力量に負うところ大であります。

いつの時代も、子どもや保護者に慕われ、尊敬されるのは、教え上手、ふれあい上手、人間味あふれる教師です。

新学期楽しく学び、元気に遊んでください。

町長

米岡幸男

